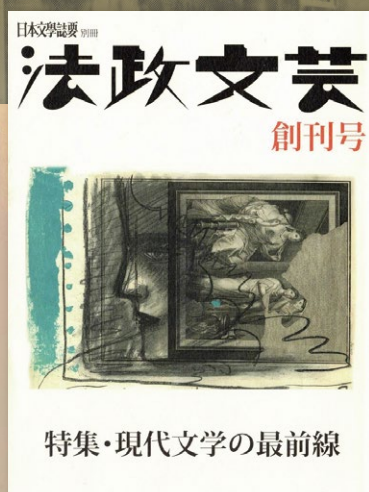


文学部日本文学科の100年と 『法政文芸』の20年



小田切 秀雄



外間 守善

日本文学科は、1924(大正13)年、法文学部内に設置された国文学科の出発から数えて、2024年で創設100周年を迎えます。

これを記念して、第1部〈日本文学科の歴史〉第2部〈学科を築き、支えた人々〉第3部〈世に送り出してきた雑誌〉の三部構成からなる特別展示を開催します。

時代の転換点や変遷の中で時を刻んできた日本文学科の100年と、『法政文芸』の20年の歩みを一望し、これからの日本文学科の100年を共に考えてみませんか。

2024年9月3日(火)～28日(土)

日・月・祝日を除く
※開催日程は今後変更が生じる
可能性がございます

10:00～17:00 (入場は16:30まで)

会場 市ヶ谷キャンパスボアソナード・タワー14階博物館展示室

入場料無料・予約不要

記録動画
公開中

期間中、日本文学科の歩みをご紹介する動画を公開しています!
展示企画と合わせてお楽しみください♪

会場 九段北校舎1階HOSEIミュージアム・コア



マップはこちらから

共催：法政大学国文学会・HOSEIミュージアム

■ 展示内容に関して

法政大学文学部 03-3264-9324

平日 9:00～17:00 (11:30～12:30を除く)

■ ミュージアムの開館等に関して

HOSEIミュージアム 03-3264-6501

平日 10:00～16:30 (11:30～12:30を除く)

お問い合わせ



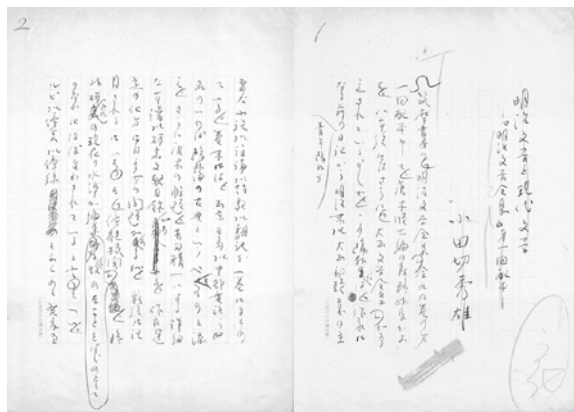
各部の内容

【第一部】

学科草創期から戦前・戦中の抵抗の時代、戦後の再出発から大学闘争の時代、大学大衆化と安定の時代、そして現在に至る革新と発展の時代の四期に分けて、日本文学科(国文学科)の歴史を写真と資料でたどっていきます。法政日文の学統の基礎を固めた歴史社会学派の活動や教員・学生の主な活動、創成期から現在に至る教員の変遷などを振り返るとともに、各時代の教員・卒業生の著作の展示も行います。

【第二部】

戦前の黄金時代を作ったと言われる片岡良一(近代文学)や、近藤忠義(近世文学)をはじめとする歴史社会学派の人々、戦後の日本文学科を主導し、牽引してきた小田切秀雄(近現代文学・評論)・益田勝実(古代文学)・廣末保(近世文学)、また彼らとともに戦後の黄金時代を築き、今年生誕百年を迎える沖繩学の権威、外間守善ほかましゆぜんの活動や業績を写真や著作とともに紹介します。



小田切秀雄自筆原稿



外間守善「私の沖縄と沖縄学」

【第三部】

日本文学科ならびにその関係者たちが刊行してきたさまざまな雑誌を紹介します。日本文学科・法政大学国文学会顔とも言える学術誌『日本文学誌要』はもとより、教員や学生が主体となって発刊した同人誌などを展示します。また、2004年に創刊され、今年創刊20周年を迎える法政大学国文学会発行の文芸誌『法政文芸』の歩みを『新思潮』『早稲田文学』『三田文学』などの大学同人誌の歴史のなかに位置づけて概観します。